

煙洲先生と横浜



竹
内
秀
雄



昭和58年11月25日 煙洲会にて
(丸岡勝美氏—S 16.12卒—撮影)



昭和58年 3 月12日 京都若生寺の新島襄先生の墓前にて



昭和57年 8月29日 第467回煙洲会墓参記会写真



昭和57年12月22日 第471回煙洲会にて

煙洲先生と横浜



竹内秀雄

目次

序に寄せて	iii
まえがき	vii

第一部 名教自然

煙洲先生と横浜	3
樅の木は残った	17
煙洲先生と私	20
私の履歴書	28
思い出の記より	45
1 誕生から小学生時代	45
2 神中時代	64
3 一年志願兵	83

第二部 随筆と講演

新富亭のピラ

—————

故六代目三遊亭円生師を偲んで

—————

古典落語の鑑賞

—————

初 夢

—————

(以上随筆)

英文学こぼれ話 (講演)

—————

むすび

—————

171

149

147

110

105

99

序に寄せて

竹内秀雄先生は早稲田大学英文学科卒業後、千葉県立成東中学校、神奈川県立商工実習学校教諭を経て後、英米に留学し帰朝後、昭和四年九月から横浜高等工業学校（現在の横浜国立大学工学部）教授として奉職され、爾来昭和三十七年三月同校を定年退官されるまで、一貫して英語教育に当られ、現在同大学名誉教授であります。

横浜高等工業学校初代校長鈴木達治先生は雅号を煙洲と申され、名教自然“の四文字であらわされる先生独自の自由啓発主義の教育方針を信念をもって貫き通された稀に見る偉大な教育者であります。そして又竹内先生も商工実習学校、横浜高等工業学校時代を通じて、煙洲先生を心から尊敬され、その教育方針の信奉者として、校内における英語教育のみならず、野球部其他の校友会活動、又生徒主事にと、その全力を傾倒して学生の指導に当られ、煙洲校長の御信任極めて厚い存在でありました。

昭和十四年六月川崎地区勤務の母校卒業生が会社終業後に、煙洲先生をお招きして夕食を共

にしながら先生のお話を聞き和やかに懇談するという会合を始めたのがいつか煙洲会と名付けられ、以来毎月一回昭和三十六年八月先生が九十一歳でお亡くなりになるまで続けられました。煙洲先生も此の会を非常に楽しみにして居られ、私が長生きできたのも煙洲会のおかげであるとまで申されて居ました。

折角永く続いた会であるから私の亡くなった後も続けられるようにとの煙洲先生のお言葉もありましたので、先生の亡き後も毎月一回第四水曜日の午後六時から八時まで現在は川崎駅ビル五階の宴会場にて開いて居り、毎回主として母校の關係の方に卓話をお願いして居ります。母校の卒業生は極めて広範囲の部門に夫々活躍されている方が多く、そのお話をうかがうのも会員の大きな楽しみでもあります。最近では直接煙洲先生の教えを受けられなかった若い世代の会員も年々増えて毎月仲々の盛況であります。

竹内秀雄先生も常にこの煙洲会にご出席になり、時には卓話をお願いしています。先生のすぐれた健康と抜群の記憶力、スピーチの巧みさは、此の方が間もなく米寿に達するお方とは到底信じられず、会員の誰もが驚き且つ畏敬の念措くあたわざるものがあります。お話の内容もほんとうに出席会員だけで伺うのは惜しいものばかりです。

今回、煙洲会では竹内先生の煙洲会に於ける卓話を基とし、更に先生の随筆、古典落語、

英文学の話等を集録し、広く皆様方におすすめしたいと思ひ、本書を刊行することになりました。

明治二十九年四月四日、伊勢佐木町の寄席「新富亭」の次男として生まれた竹内先生は、昭和五十五年秋「寄席の息子と英文学」と題して、装幀も内容もすばらしい著書を自ら出版され、多くの方々のお手許にもお届けになりました。今回は「煙洲先生と横浜」と題し表紙は昭和七年建築科卒で煙洲会の熱心な会員である春陽会会員 田辺謙輔画伯の名教碑の墨画を頂き、又「煙洲先生と横浜」という題字は橋右京先生にお願いいたしました。

本書の文章の中からも竹内先生のスピーチのすばらしさの一端はうかがえるものと確信して敢て皆様方におすすめる次第です。

竹内先生がますますお元気で何時までも、煙洲会にご出席頂き、我々会員一同の励みとなりますよう先生の御健勝を祈って止みません。

昭和五十八年十二月十五日

煙洲会代表 菅 要助

まえがき

著者の半世紀を越える教師生活の大きな支えとなつて下さつた恩師、煙洲鈴木達治先生を偲ぶ煙洲会の第四百回記念講演「煙洲先生と横浜」を再録して、これを題名と致しました。

その後、六郷会の第三十回記念講演「煙洲先生と私」、また煙洲会での講演「私の履歴書」等名教自然に関するものと、寄席の息子として再録させて頂いた「新富亭のピラ」と「故六代目三遊亭円生師を偲ぶ」等、嘗て「浜っ子」に寄稿した随筆の外に、未発表の「古典落語の鑑賞」という、ポピュラーな落語の素人解説、及び昨年末に煙洲会（第四七一回）で講演しました「英文学こぼれ話」等を新しく加えました。

この「煙洲先生と横浜」が上梓の運びに至りましたことは、本会の代表菅要助氏をはじめ、幹事の村松四郎君等の方々の御尽力によるもので、その御芳情に対し、茲に厚く御礼申し上げます。

昭和五十八年十二月二十五日

著者